共生委員会ニュース

ともしび

2024 年度 第１号

2024 年５月

共生探究学習委員会



72 期『平和・共生論文集』

◎共生委員会ニュース「ともしび」とは

共生探究学習委員会は平和や共生に関わる活動、修学旅行などを担当する教員の委員会です。高等部の3年間を通じ、同じ社会に共に暮らす様々な人々との関わりに目を向け、平和や共生の諸問題について考えていきましょう。

この共生委員会ニュースでは、様々な経験をする機会を得た生徒や教員の声を皆さんへお届けします。他の人の経験を共有し、深く考えるきっかけとして下さい。

スクールモットー「地の塩、世の光」

◎高等部の平和共生教育

3 年間の流れ（23 年度）

修学旅行、毎日の礼拝、各教科の授業などで平和と共生について学び、『平和共生 LogBook』に足跡を残していきます。

１年生 《平和共生論文》テーマ選定

【聖書】伝道週間で共生について考える【生物】妊娠中の遺伝学的検査について考える

【英語】Playing the Enemy（アパルトヘイト撤廃後の南アフリカラグビーW杯）

２年生 《平和共生論文》調査・アウトライン作成・執筆

【聖書】伝道週間で共生について考える　【現代文総合Ⅰ】長崎の原爆に関する作品

【歴史総合】太平洋戦争、アウシュビッツ収容所、原爆の歴史、ベトナム戦争

【公共】日本国憲法第9条、核兵器　【英語】Irena Sendler の人生を通して

【物理】原子力と核兵器　【修学旅行】被爆の歴史、キリシタン弾圧の歴史

３年生 《平和共生論文》完成・読み合い等

【聖書】伝道週間で共生について考える　【英語】共生に関するテーマ

◆その他、グローバルウィーク、礼拝、自主学習グループの活動（フィリピン、宮古、東ティモール）など

特集①　フィリピン訪問プログラム

支援に正解は見つからない

３年　E.U.

私はたまたま日本に生まれたので貧しさを実感したことがありませんでした。そんな私が３月に高等部で支援しているフィリピンの子供達に会いに行ってきました。

長年高等部では、支援団体チャイルド･ファンド･ジャパン(CFJ)を通してフィリピンの貧困層の子供達を支援しています。フィリピンは、近年急激な経済成長を遂げている国ですが、同時に貧富の差が広がっている現状があります。

私は首都マニラのスモーキーマウンテンというスラム街で支援の意義を肌で感じました。スモーキーマウンテンは、ゴミ集積場の周りのスラム街の事でフィリピン貧困層の代名詞と言える最貧困地区です。このスラム街の住民のほとんどがゴミ山の中から使えそうな物を拾い換金して生計を立てています。

私がお邪魔したスラム街のお宅は橋にベニヤ板をくくりつけて作られた至極不安定な家でいつ川に落ちてしまうかと不安でした。このスラム街では売春、薬物、児童労働、虐待などの犯罪が横行し、日々子供達が巻き込まれています。親も自分の親から虐待をされていた過去があるため自分の子供にどう接していいかわからず虐待を繰り返してしまう、自分の周りの友達が売春で家族を養っているのを聞いて自分も売春して生計をたててしまう、など負の連鎖が生まれているのです。実際に支援センターでは売春で家族を養っていた過去や、親に虐待を日常的に受けていた過去をもつ方と交流しました。それまで文字としてしか捉えられていなかった犯罪を実際に被害者の方を目の前にすることで、本当にこのスラムで起こっている問題なんだと恐ろしくなりました。

今このときも、子供達は虐待や性犯罪に苦しんでいます。CFJ では、子供達だけでなく親への教育にも力を入れていて、地域全体の自立を支援しています。親子の関係性について学ぶことで虐待も減っていき、地域全体で負の連鎖を断ち切るきっかけを作ることができます。しかし近年 CFJ への寄付金が減り、同時にフィリピンへの支援も縮小されつつあります。それによって支援を受けられる 子供も減ってきています。私達の献金で救われる子供がいることを心に留めてくれたなら、願いを込めて献金して欲しいと思います。





特集②ユニファイドスポーツ体験

ユニファイドスポーツを通して

3 年 I.Y.

2023 年の 3 月 15、16 日の 2 日間で、スペシャルオリンピックスの方々をお招きし、ユニファイドスポーツのイベントが開催されました。

スペシャルオリンピックスとは、知的障害のある人たちに様々なスポーツトレーニングと、その成果の発表会である競技会を提供する国際的なスポーツ団体です。また、ユニファイドスポーツとは、知的障害のある人(アスリート)と、知的障害のない人(パートナー)がチームメイトとなり、一緒にスポーツをするスペシャルオリンピックス独自の取り組みです。障害のある人のサポーターとしてではなく、チームメイトとしてスポーツをする、という部分に魅力を感じ、参加を決めました。

今回のユニファイドスポーツではバレーボールを行いました。普段から選手としてバレーボールをしているアスリートの方々はやはりとても上手で、苦手な私にたくさん声がけをしてくださいました。あるアスリートは、私がパスで上手く返せた時、サーブが入った時に上手!と元気に言ってくれました。その方とお話しした際、ご自身の大会での活躍や得意なことを誇らしげに教えてくださいました。補聴器をつけていらっしゃったのですが、手話ができない私の話もおそらく読唇で理解し、声を使って一つ一つ答えてくださいました。何かをする際、私たち障害のない人よりも大きな一歩が必要なことが多い中で、好きなことに全力を注いで楽しむ姿、できないと諦めるのではなく他の方法を探して挑戦する姿はとても素敵でした。

これまで参加してきた障害のある方との活動では「してあげよう」「助けてあげよう」と言う言葉をよく耳にした気がします。無意識のうちに障害のない人が「あげる側」、障害ある人が「貰う側」と決めつけてしまっていたように感じます。もちろん、できないことを見つけて助けてあげることや手伝ってあげることも大切です。しかし、今回の活動でアスリートの姿からたくさんのものをいただきました。

性別、年齢、人種、宗教、障害など世界にはたくさんの個性がありますが、どの個性を持つ人とも「学び合える・支え合える」社会が来る日を心待ちに、自分のできることを少しずつやっていこうと思います。今回のイベントに関わってくださった全ての方に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。





特集③ボランティア部　炊き出し支援

人々の優しさと温かさ

２年 K.K.

寿町に一歩足を踏み入れた時、薄暗く時間の止まったような街並みに、少し不安な気持ちさえ覚えました。街角から出てきた誰かに急に襲われたり、危険な事件に巻き込まれたりせずに無事に帰れるのか心配になるほどでした。

そんな不安な気持ちが晴れたのは、炊き出しのお皿を回収している時の出来事でした。一人の男性が寄って来て「さっきは驚かせてごめんね、びっくりしちゃった？」と話しかけてきて下さいました。その男性は通りすがりの方と衝突し、雑炊をこぼされた怒りで怒鳴り声を上げた方でした。近寄って来た時は少し怖かったのですが「普段はこんなにおじさんも怒らないんだけどね、こぼされたからちょっと頭にきちゃって。」と申し訳なさそうに謝りに来て下さいました。正直、公園中に響きわたった怒鳴り声には驚きましたが、なんの被害もない私達に謝りにきてくださった優しい想いと行動に触れ、温かい気持ちになりました。

私は今まで、浮浪者の方を街中で見かけると、なんだか怖いと感じ避けていましたが、それは偏見だったのではないかと感じました。帰り際には「ありがとう」や「美味しかったよ」といった数々の感謝のお言葉を頂き、このボランティア活動に参加して良かったとも思いました。

今の私には、日本がこういった政策だからとか、こういった法律があるから苦しい生活をしている人がいるといった視点からは、社会の仕組みについてまだまだ学びの途中であり、強く主張は出来ないのですが、この度の寿町での活動を通してお逢い出来た方々への、偏見や差別による暴力や暴言、仕事の機会を奪うことは決してあってはいけないと思いました。

そして、様々な過去を背負いながらも、小さなことへの感謝の言葉を忘れず、お互い助け合いながら、日々生活をされている寿町の人々の力に少しでもなれればと思いました。

私にできることは小さなことかもしれませんが、寿町に暮らす人々の心の優しさを心に留めて、様々な偏見や差別のない未来へ繋げたいと思います。

貴重な経験をありがとうございました。



◎「ＦＯＲ会」開催！

青山学院大学**「東北応援愛好会（MF3.11）」**と高等部**「宮古訪問プログラム」**による合同イベント**「FOR 会」**を、下記の日時、場所で開催します！活動紹介や大学生とのミニゲームなど、「共生」について楽しく学ぶチャンスです。宮古についてよく知らない、という人もお気軽にご参加ください。

日時…5 月 15 日（水）16:00　　場所…小教室北 B（HR109 向かい）